

## 自然との共生について（回答者 362 人）

### 【調査の目的】

県では、**人と自然が共生する社会（※1）**づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって**生物多様性（※2）**の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」を策定しました。つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方等をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

#### ※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

#### ※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問 1

「生物多様性」の認知度

| 項目                        | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 | 合計  | 割合    |
|---------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-------|
| ①内容をよく知っている               | 5   | 6   | 4   | 6   | 8   | 4   | 4     | 37  | 10.2% |
| ②内容をある程度知っている             | 0   | 11  | 12  | 15  | 12  | 17  | 8     | 75  | 20.7% |
| ③言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる   | 2   | 10  | 23  | 18  | 18  | 23  | 13    | 107 | 29.6% |
| ④言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない | 2   | 10  | 8   | 16  | 12  | 14  | 7     | 69  | 19.1% |
| ⑤全く知らない                   | —   | 3   | 14  | 21  | 12  | 16  | 8     | 74  | 20.4% |

※R3 年度までは「③言葉を聞いたことがある」「④全く知らない」としていたが、R4 年度から設問を上記のとおり変更し、認知度は①～②の合計から①～③の合計と整理した。

<直近 5 年間の福岡県における生物多様性の認知度の推移>

| 項目                        | 2020(R2)年度 |       | 2021(R3)年度 |       | 2022(R4)年度 |       | 2023(R5)年度 |       |
|---------------------------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|
|                           | 人          | 割合    | 人          | 割合    | 人          | 割合    | 人          | 割合    |
| ①内容をよく知っている               | 37         | 10.1% | 29         | 8.1%  | 43         | 11.8% | 22         | 5.9%  |
| ②内容をある程度知っている             | 106        | 28.9% | 104        | 28.9% | 86         | 23.6% | 93         | 24.9% |
| ③言葉を聞いたことがある (R3年度まで)     | 129        | 35.1% | 141        | 39.1% |            |       |            |       |
| ③言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる   |            |       |            |       | 106        | 29.0% | 122        | 32.7% |
| ④言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない |            |       |            |       | 65         | 17.8% | 73         | 19.6% |
| ⑤全く知らない                   | 95         | 25.9% | 86         | 23.9% | 65         | 17.8% | 63         | 16.9% |
| 合計                        | 367        | 100%  | 360        | 100%  | 365        | 100%  | 373        | 100%  |

<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移

(H 2 3 は生物多様性戦略策定時の数値、R4 年度から認知度の設定を見直し)

| 調査年度  | 認知度<br>合計 | (内訳)  |       |        |
|-------|-----------|-------|-------|--------|
|       |           | ①     | ②     | ③      |
| 平成23年 | 33.0%     | 7.5%  | 25.5% |        |
| 平成26年 | 39.3%     | 6.2%  | 33.1% |        |
| 平成27年 | 43.4%     | 11.5% | 31.9% |        |
| 平成28年 | 39.5%     | 11.8% | 27.7% |        |
| 平成29年 | 38.1%     | 11.2% | 26.9% |        |
| 平成30年 | 32.0%     | 9.9%  | 22.1% |        |
| 令和元年  | 37.5%     | 9.7%  | 27.8% |        |
| 令和2年  | 39.0%     | 10.1% | 28.9% |        |
| 令和3年  | 37.0%     | 8.1%  | 28.9% |        |
| 令和4年  | 64.4%     | 11.8% | 23.6% | 29.0%  |
| 令和5年  | 63.5%     | 5.9%  | 24.9% | 32.7%  |
| 令和6年  | 60.5%     | 10.2% | 20.7% | 29.60% |

## 問 2

生物多様性に配慮した行動として行っていること（2つまで回答可）

| 項目                               | 件数  | 割合    |
|----------------------------------|-----|-------|
| 旬のもの、地元のものを選んで購入する               | 214 | 34.0% |
| 節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む      | 130 | 20.6% |
| 生きものを最後まで責任を持って育てる               | 95  | 15.1% |
| 身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう    | 80  | 12.7% |
| 生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ | 32  | 5.1%  |
| 自然や生きものについて、家族や友人と話し合う           | 28  | 4.4%  |
| 生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する   | 20  | 3.2%  |
| エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する           | 18  | 2.9%  |
| 特に行いたいとは思わない                     | 11  | 1.7%  |
| その他                              | 2   | 0.3%  |

＜特に行いたいとは思わないを選んだ理由（抜粋）＞

- ・自らに生物多様性の為に何かを行う理由が存在しないから
- ・正確な科学的根拠に基づいていない利権によるものがあるため、こちらがなにかを負担してまで行おうとは思わない。
- ・興味、関心がない
- ・自然に配慮するというのは、人類の考えであって、自然に生きる生き物は環境が変わればそれに対応して生き残ってきたし、それが進化なんだろうと思う。だから何も行いたいとは思わないし、自然に任せたほうが一番いいと思う。地球が生き物だと考えれば、地球に決めてもらったほうがいい。環境が変われば人類も進化するしかない。人類が自然保護等に手を入れれば入れるほど、欲が絡んでくるし、余計にこじれているような気がする。
- ・虫などが苦手だから
- ・節電等は考えるが、自然に対して無駄な抵抗と思える部分もあるため、進んで何かをしようとは思わない。
- ・興味がない
- ・生物多様性を具体的不明の為、特に理由はありません

＜その他の回答＞

- ・言葉自体を知らないので意識したことはありません。ただ、自然は大事に、逆らえない物だと思っています。
- ・太陽光発電などをおこなって動植物が得るはずだったエネルギーを奪うようなことをしない。

問 3

自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと  
(3つまで回答可)

| 項目                                                                   | 件数  | 割合    |
|----------------------------------------------------------------------|-----|-------|
| 身近な野生生物(ホタル、ツバメなど)や里地里山といった身近な自然の保全                                  | 204 | 22.3% |
| 野生鳥獣(シカ、イノシシなど)や外来生物による被害の防止                                         | 144 | 15.7% |
| 希少な野生動植物やその生息地の保全・保護                                                 | 143 | 15.6% |
| 環境に配慮した公共工事の推進                                                       | 139 | 15.2% |
| 環境教育の充実                                                              | 118 | 12.9% |
| 生物多様性に関する各種情報の発信・提供(希少種・外来種を含む生きもの全般の情報、県内で活動する保全団体の情報、環境啓発資料、県の施策等) | 73  | 8.0%  |
| 生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援                                                | 52  | 5.7%  |
| 生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究                                    | 39  | 4.3%  |
| その他                                                                  | 4   | 0.4%  |

＜その他の回答＞

- ・必要性を感じていないから特段ない
- ・日本も高齢化が進み、消滅自治体がニュースになる中で、限界集落は里山に戻す時期が来たのではないかと思います。昔は野生生物の生きる場所と人間が生きる場所の住み分けができていたはずですが、今は宅地化等が進み区分けが失われている状況だと思います。県が進めるべきは、パンフレットみたいな自然と共生するスタイルではなくて、野山の宅地開発等を制限したり、野生生物との住み分けを進めていくことだと思います。
- ・自然保護と言いつつ太陽光パネルのはげ山を作るなど矛盾するようなことをしないように、県は知事を筆頭に積極的に勉強してください。
- ・家庭菜園をカラスに荒らされて、大変困っています。

問 4

生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか。

| 項目                                         | 件数  | 割合    |
|--------------------------------------------|-----|-------|
| 地域の活動に対して資金等を助成する                          | 106 | 29.3% |
| 誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットを作成し、周知・配布する | 98  | 27.1% |
| 生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する               | 67  | 18.5% |
| 市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う      | 49  | 13.5% |
| 地域の活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する              | 35  | 9.7%  |
| その他                                        | 7   | 1.9%  |

＜その他の回答(抜粋)＞

- ・必要性の周知
- ・県営住宅で保護犬や保護猫を飼えるようにすべき。
- ・開発の規制(特に太陽光発電)。
- ・専門家をお呼びして勉強会を開く。
- ・誰でも取り組めるような生物多様性保全活動を小刻みに開催していく。

問 5

条件付特定外来生物の規制の内容等の把握。

| 項目                      | 件数  | 割合    |
|-------------------------|-----|-------|
| 全く知らない                  | 167 | 44.8% |
| 規制の内容をある程度知っている         | 83  | 22.3% |
| 条件付特定外来生物に指定されたことは知っている | 83  | 22.3% |
| 規制の内容をよく知っている           | 29  | 7.8%  |

問 6

地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのある侵略的外来種の中で、優先的に対策が必要な種（2つまで選択可）

| 項目                           | 件数  | 割合    |
|------------------------------|-----|-------|
| セアカゴケグモ                      | 164 | 45.3% |
| オオクチバス(通称:ブラックバス)            | 124 | 34.3% |
| アライグマ                        | 97  | 26.8% |
| アカミミガメ(通称:ミドリガメ)             | 71  | 19.6% |
| アメリカザリガニ                     | 63  | 17.4% |
| その他                          | 36  | 9.9%  |
| 水生植物(ブラジルチドメグサ、ナガエツルノゲイトウ 等) | 30  | 8.3%  |
| オオキンケイギク                     | 16  | 4.4%  |

<その他の回答>

| 名称                | 件数 |
|-------------------|----|
| ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ) | 12 |
| カラス               | 3  |
| イノシシ              | 2  |
| ツマアカスズメバチ         | 1  |
| セイタカアワダチソウ        | 1  |
| ヒアリ               | 1  |
| イタチ               | 1  |
| ハクビシン             | 1  |
| タヌキ               | 1  |
| 野犬                | 1  |
| シカ                | 1  |
| マダニ               | 1  |
| スズメ               | 1  |
| ハト                | 1  |
| 未回答               | 8  |

- ・生物多様性をおびやかす侵略的外来種とも共生が必要なのでは・・・
- ・子供の頃、アメリカザリガニは、田んぼにも河川にも堀にも生息していましたし、ザリガニがいるところには他の生き物も「共生」していました。持ち込んだのは人類であるのに環境に適応してそこに生きている特定外来生物は、もはや自然環境の一部と呼べるんじゃないでしょうか。都合が悪くなると切り捨てるのは、人間に対しても生物に対しても同じで悲しいですね。

問 7

これまでの設問以外での御意見(計88人)

|                  |    |
|------------------|----|
| 普及啓発・教育          | 25 |
| 外来生物（特定外来生物含む）関係 | 16 |
| 有害鳥獣・ワンヘルス関係     | 13 |
| 環境問題             | 11 |
| ペット・犬猫関係         | 2  |
| その他（上記に区分できないもの） | 21 |

＜普及啓発・教育＞

・「自然との共生」というテーマ・取り扱い範囲が漠然としすぎていて、県民レベルではなかなか認識しにくいです。子供の頃からの生活習慣・学校や家庭内の教育が重要で、30 代以降の県民の意識・行動を変革することはなかなか困難です。小学校から高校までの教育、大学生のインターンシップ等の活動や各諸団体・機関の取組に触れる機会等を重点的に取り組んでいただけるのが長期的に成果が出るものだと思います。付加的に、各諸団体・機関の取組にボランティア活動・イベント参加等に関わる県民を増やしていくことができれば、全世代への網羅的な普及の一步となりそうです。

・0→1 をさせないためにも広告活動が重要になってくる。

・こういう関係の教育は小学校までが主であり、その後も引き続きこれまで以上の教育が必要と考える。

・やはり教育が必要。小学校の遠足や見学を自然に近いところで行うようにし、小さい頃から触れ合うようにすることが重要。

・県民が興味を持って見かけたら通報するようにすれば広域に広がることを未然に防げるのではないのでしょうか？

・今以上にニュース等に取り上げてもらい、周知徹底してほしい。

・子どもが自然に触れ合える場所が少なくなりすぎて、自然の大切さや豊かさを知らない世代が多いように感じています。川が危険であることや、生きものに命があることなど、自分たちの時代に当たり前だったことすら知らない子どもたちが増えていて、寂しい気持ちになります。

・子供には自然に触れ合う機会を増やしてあげたい。施設の充実を

・子供達がもっと自然と触れ合うように教育環境を考えて欲しい。最近やたらと虫などを嫌う傾向にあると思われる。もちろん毒を持つ生物は危険ですが基本的に触れ合って学ぶことの方が多いいと思います。

・子供達が興味を持つ様な学習機会を増やすべき。

・私が小さかった頃はよく川で遊んでいましたが、今ではそういう光景を見る機会が減りました。

近所に景色が良く雰囲気の良い川がありますが、もう少し手を加えて水遊び出来るような環境を整えて頂ければ、子供達も自然に触れ合う機会が増えるのではないかと思います。

・飼えなくなると、川に逃がし、大量に発生し、生命体が、崩れてしまう。

カメやザリガニを売る側の人に「最後まで責任を持って買ひましょう、川に逃がすのはどうしてダメか」などが書いてあるリーフレットを絶対に購入者に渡して読んで知ってもらいたいと思います。

・自然との共生については、市街地では身近ではなくなかなかわかりにくい。県として、機会があるごとに情報発信をお願いしたい。

・自然と共生していない具体例を福岡県がテレビで知らせる等も効果的だと思います。

・自然環境を整えたいと思っています。福津市や宗像の海岸にゴミがたくさんあり、環境破壊をしています。県民で綺麗にする運動を広めてほしいです。以前、宗像フェスで海岸のゴミ拾いすると安いチケットを購入できました。いろいろな機会に海外清掃をアピールしてほしいです。

・住宅地近くで出没するさる、イタチ、いのししなどの小動物との共生と対策。

出没の情報、対応、などの情報発信。出没の実態調査。

・生物多様性に関して、もっと県民に、わかりやすく、知らせた方がよい。

・多くの人が参加して成果が出る取り組みなので、学校での教育や周知活動をして広めていく必要があると思う。

・知らない人も多いかと思うので、広報誌等で積極的に発信をして欲しいと感じました

・町中に住んでいると自然との共生について考えることがありません。

県民の多くが自然と触れ合える機会を設けてほしいと思います。

町中に居ても自然を感じられるような緑地などを増やしてほしい。

・日本固有種を保全する取り組みを、小学校のときから啓蒙したい

・必要な時又は被害が出た時に情報が流れるが、常時スマホのアプリなどに情報が出てくる対策が必要。テレビや新聞やラジオはその瞬間情報をゲットできるもので、知らない場合が多い。

・保育園や学校で小さい頃から教育していくことが重要だと思う

・豊かな自然と、多種多様な生物の共存は、私達が生きてゆく上で大事な事だと考えます。自然の中で育まれた野菜や、魚、肉を人間が食し、生命を繋いでいる事を、学校や地域全体で学び、環境を守っていく事が大事で、どんな取り組みを行えば良いかを考え学ぶ機会を増やす必要があるのではと考えます。自然豊かで、魚もお肉も、野菜やお水も美味しい、福岡県が大好きです。

・専門知識を持ち、地域と良好なコミュニケーションがとれる人材の育成。

#### <外来生物(特定外来生物を含む)関係>

・アメリカザリガニ、ジャンボタニシは元々食用なので、捕獲法や美味しい料理法などを紹介して、食べてもらい、個体を減らす様に啓蒙する。

・アライグマは最近自分のまわりでよく見かける様になり他人事ではなくなりました。かなり凶暴性があり自分達ではどうしようもありません。捕獲罠の貸出などの対策をする必要があります。

・外来種などの輸入に関して厳しく取り締まるべきかと思います。持ち込ませないが一番効果的かと思っています。

・外来種についての正しい認識を持てる場を提供すべき

・外来種についてはもっと、アピールをすべきだと感じる。輸入規制は厳しく、簡単に手に入る環境に違和感がある。

・外来種のペット(例えばヘビ、トカゲ、魚など)の飼育放棄に関して、もっと厳しい条例を制定してはいかがでしょうか？

・外来種を簡単に購入できなくさせる必要があると思います。購入するときに税金のように外来種駆除の費用を払う義務をおわせるなどして、そこまでしてでも飼いたい人しか飼えないようにすることも大事。

・外来種を見つけたらどうすれば良いのか？詳しく情報をお知らせしてほしいです。

・近所の畑で作られている農作物が、猪やアライグマにより荒らされ食べられる被害がとて多く聞かれます！！どう対策したらいいのでしょうか。

・雑草として生えてきたオオキンケイギクを知らずにそのまま育てている人を見かけます。特定外来生物であることを知らない人が結構いるんだなと思いました。どのようなものが特定外来生物なのかを周知してほしいです。

・雑木林の保全

海外からの持ち込みを厳しくしてほしい。輸入ペットの制限等

・侵略的外来種といえども、一番悪いのは生き物ではなく、持ち込んだ人間、野に放った人間であることは、同時に発信すべきだと思います。

また、オオクチバスやアメリカザリガニなど、もはや手が付けられないほど広がっている生物もいます。

今の世間の報道は、侵略的外来種＝駆除のためなら残虐な殺し方をしても良いと、極端に捉える人が一部いることも事実です。

なので、私は、駆除は必要という情報と共に、一番悪いのは人間であったことを伝えることが、大切だと思っています。

・選択は2つでしたが全ての外来生物への対策が必要だと思います。

・特定外来生物は最近でこそ理解が広まり、規制も強化されているが、過去にペットとして飼われていたものが捨てられたり、意図せずに持ち込まれたりした結果、野生化して問題を引き起こしている場合が多いようだ。要するに過去の無責任な行動が原因である。生態系や農林水産業だけでなく、セアカゴケグモやヒアリのように人間に直接の危険をもたらす生物も増えている。しかも特定外来生物への対策はしばしば後手に回り、被害が拡大してからようやく

対策が講じられることが多い。被害を未然に防ぐことが難しくなっていることが最大の問題であらう。影響の深刻さを強く認識し、早急かつ効果的な対策を求めたいところだ。

・難しい問題だと感じました。

野生鳥獣による被害や駆除のニュースを見聞きするたび胸が痛みます。皆同じく生きていくのに必死なのだと感じます。しかし対策をとらなければ問題が大きくなる可能性があり、実際に対応にあたられている方々には頭の下がる思いです。駆除の対象となった生物がせめて亡くなる時に恐怖や苦痛が少ないように願うばかりです。肉や皮を利用させてもらうのは、命を無駄にしない、意味のある取り組みだと思います。自分は何ができるか勉強して考え行動したいです。人の活動によって持ち込まれた外来種の問題やペットの多頭飼育崩壊、飼い主や業者による遺棄の問題は特に、継続的な教育や啓発による人の意識の変化、取り締まりが重要だと考えます。大きな問題になる前に情報提供を受けたり、相談できる場があれば良いなと思います。

・問6(侵略的外来種での対策優先種に関する問い)はすべての項目が当てはまると感じている(優先順位なし)。侵略的外来種の徹底的駆除を強く望む。大胆な施策の実施が必要であって、中途半端な取り組みはかえって財政の無駄使いだと思う。

#### ＜有害鳥獣・ワンヘルス関係＞

・ゴミを荒らすカラスや野良ネコへの対応に力を入れて欲しい。生物多様性を言う前に、まずはそこから始めて欲しい。

・害獣や害虫の駆除に、「ああしたら可哀そうとか、こうしたら可哀そうとか」人があまりにも神経質になりすぎていると思います。害獣や害虫の駆除に許可や特別の方法を必要とするのではなく、だれもが害になるものは駆除してもよい世の中が必要ではないですか。

・熊の出没が取り沙汰されていますが、人間か野生の動植物に対する配慮の無さが、現時点で表れたのだと、とっても危惧しています。

・香春町は、自然にあふれている。サル、アライグマ、アナグマ、イノシシ、ハクビシンなどが出没し、農作物への被害もあり、野生動物を嫌悪する人も多い。また、河岸には草が繁茂しており、美しいとはいいがたい。自然と共存するためには、あるがままでなく、ある程度、自然を整備し、心地よい環境にすることも大事だと考える。

・最近当地域で、猿が歩いています。

私も近くで偶然あいました。びっくりしてしまってどのようにしたらよいか判断がつきませんでした。幸い事故には会いませんでした。良い対策をぜひ教えて下さい。

・昨今の熊、イノシシ、猿などの被害を聞き、里山の育成維持の重要性を痛感する。このための施策、対策をさらに行ってほしい。

・山林の植生維持などの取り組みで里山に棲む動物の保護を促し、人里で人畜被害が出ないようにして欲しい

・自然との共生は大切です、その上で大規模太陽光発電所や山の本の大規模な伐採は自然を破壊する危険な行為です。また土砂災害や土壌汚染といった二次被害・三次被害を招きま

す。現在、こういった計画がある場合は中止を強く求めますし、今後このような計画が練られることがないようにお願いしたいです。

また、ジャンボタニシのような稲作農家にとって天敵とも言えるような生物に対して早急に対策を行う必要があるとも考えます。さらに言えば、猪や鹿といった生き物についても対応を行うべきであり、自然のバランスを崩さない程度に狩りをして、狩った肉は業者に卸したりするのも提案いたします。

- ・自然環境に大きな影響を与える生物、植物除去にたいして補助金の提供。

人に害を与えている、サル、イノシシの駆除の実施。

- ・猪などの対策に苦慮する生産者に補助金を

- ・鳥害を防ぐ為に生息範囲や固有数の管理をして欲しい

- ・野生の猿の被害を防止する対策にも取り組んでほしいです。

- ・野生動物が畑を荒らしたというニュースを目にしますが、自然を壊し彼らの住みかや餌を奪っているのは人間側ではないかと思います。

そもそも世界的に人口は減少しているのに、自然を壊し人間の住みかをつくることは本当に必要なのでしょうか？

住みかや餌をなくした野生動物が畑を荒らす。これは自然なことのように思えます。

#### <環境問題>

- ・「自然との共生」について、環境問題との線引きがよくわからない。また、なかなか学習できないカテゴリーであるので、人々が学ぶ接点を見つけるところがスタートであると感じます。

- ・これだけ生物多様性、環境保全が叫ばれていても、県内の各地で山が一つ消えるような大型開発が多くみられます。また、山を切り開いてソーラーパネルになっている場所も多くあります。どうせ人口は減る日本社会で、この期に及んで大規模開発をやっている市町村の姿勢は不快ですし、県もどういう方針を持っているのかよくわかりません。

農業、林業など自然とは切り離せない産業の在り方についても、自然との共生を語るならばよくよく検討して施策に反映させてもらいたいと思います。

- ・やはり圧倒的に宅地開発などで里山や自然地域が少なくなっていると思います。過密なマンション乱立で息苦しい街になっていて緑が少ない。制限をして人と緑と生き物が共存出来る程良さが必要だと思います。

- ・開発や森林伐採する時には、将来的なことを熟考した上で行う。

- ・共生と直接的な関係はないかもしれませんが、福岡県は山林や河川、海浜、道路に至るまで、ポイ捨てや不法投棄が目に残ります。

環境保護意識の醸成と不法投棄の取り締まり、啓蒙、教育を同時進行で進めるべきではないでしょうか。一度失われた自然を元通りにするのは至難の業です。

- ・人類も地球から生まれた自然の一部だろうし、パンフレットにも書かれていましたが、「生きものを支え、生き物に支えられる」という言葉が入っているのに、生態系管理という言葉が入っている。自然共生というのは、人類が野生生物の生きている命を管理することですか。生き

物は自然の一部であり、自然は人類が管理できないことがわかっているのに、エコです。自然との共生というのは、野生生物を人類が管理することではなく、人間と野生生物の生きる場所をそれぞれ確保し、干渉しあわないことだと思います。野生生物にとっては、人間のかまっていあげない行為は有難迷惑だと思います。

- ・世の中の流れとしては人間が 1 番だと思い込んだことが多く、むやみに生き物を殺しすぎる気がする。元々山に住んでる生き物。山を崩して勝手に住んでる人間。

戦争をするのではなく、「そっと見守れる余裕がある人間」で、そんな環境であってほしい。福岡が。共存できる都市であればと思う

- ・地球が沸騰しすぎて、生き物が絶滅するのではないかとこの日々の暑さに胸を痛めている

- ・筑豊は太陽光発電ばかりになって自然の野山が失われているので、規制して欲しい。おかげで数年前まで自宅付近で見ることなかった猪とかを見るようになった。これで太陽光発電のブームが終わったら、廃棄するパネルばかり残って第二の閉山になる。あとに残るのは荒れた野原だけになる。(炭鉱と違って経済的影響はほとんどないかもですが)

- ・福岡は都会と自然が近くて素敵な都市なので、開発を進めるだけではなく自然との共生を目指す都市にしてほしいです。

- ・大規模な太陽光発電の制限。休眠地を外国資本による買収の制限。

#### <ペット・犬猫関係>

- ・その場の勢いで犬や猫を含む生物をペットにして、最後まで面倒を見ない人が増えている気がします。

なんでも「お金」を出せば買えて、要らなくなったら捨ててしまう消費する考え方を変えていかなければ、自然との共生は難しくなっていくのかと思っています。

短絡的に欲しいと言う欲求だけで動かず、未来を考えて動くような考え方を小さい頃から体験できれば良いと思います。

- ・池などに生き物を捨てない事。

#### <その他>

- ・私は宮若市の川に棲息するホタルを子どもの頃に見たのをとても印象強く覚えています。ふと思い出して数年前にまだいるだろうかと思に行ったら、その時と変わらず美しい光を放っていたので感動しました。

私が育った筑豊地域の自然環境は、昭和から平成にかけての時代よりむしろ良くなっていると思います。その要因として、筑豊地域が県内の経済的発展が比較的遅れているという残念な事実もあるでしょう。しかし、こと自然環境については、特に石炭採掘が盛んだった頃に比べて確実に良くなっていると思います。(遠賀川もきれいになったと聞いています)

- ・「自然との共生」「エコ」などを謳ったビジネスが横行しているため、区分けをしっかりとってほしい。

- ・「自然との共生」は大事であることはわかるが、そのために私たちが何をすべきかよくわからない。

・日曜朝放送のテレビ番組で自然の風景を毎週見えています。魚、鳥、虫、小動物などの色々な生態が見られて面白いです。

・これから、生態系をこれ以上崩さない様に人間が努力しなければならないと考えている。

・経済至上主義から脱して、持続可能な社会の実現に向け、個人としてもできることをやっていきたい。

・見事に縁がありません。蜂、白アリ、野良猫くらいか。

昔、狩猟許可をもっていた父が撃てきたいのししやウサギをたべていましたが、今は捕まえて檻に詰め、山にのがしますよね。いたちごっこなんじゃないの?と思ってしまいます。でもうち殺すと批判が来るんでしょ。飼い犬でも人を襲ってケガをさせたら殺処分ですよね。うち殺しちゃダメなのでしょうか。

・今まであまり意識してこなかったので今後は目を向けて行きたい。

・山林の杉などアレルギーの原因になる木々を伐採し、影響の少ない種類への植替えへの助成を行ってほしい

・私の地域はある程度自然が残っているが、後世に豊かな自然を残していくためにも自治体と地域住民と協力して、できることからコツコツと始めていきたい。

・時には数を増やしたりまた駆除したり大変だと思う

・自然を大切にしたら分、人間も自然から、大切にされる。

・深く考えたことはありませんでした。

・人間が捕食者である以上、自然との共生は偏った考え方なのは明らかである。

・人口減少で手入れの出来ない土地は自然に帰っていくと思いますが、その場合はそこにある建物は処理しないといけない

・全く知りませんでした。内容詳しく知りたいです。

・地域の住民の方が行なっている里山の保全活動などのお手伝いがしたいと思います

・動植物の生態をよく知ることが必要

・動物は好きなのでもっと自然について考えていきたい。イベントなどがあれば参加したい

・勉強してください

・命あるものの話になるので、とても難しい問題だと思います。

なるべく駆除という形ではない解決方法を探す方が良いのかなとも感じます。